

青年行政書士 波田の赤穂

「年中無休」25歳熱く

祖父の悲劇転機に工業系から挑戦

波田町で事務所を構える行政書士・赤穂大樹さん(25)の名刺には、「365日休まず営業」の赤い文字がある。工業系大学に進学しながら、身内の金銭トラブルが転機となって行政書士へ方向転換。5月で満2年を迎える。県行政書士会に所属する会員約1030人の中で2番目の若さだ。

赤穂さんは松本工業高校(松本市)を02年に卒業後、神奈川県に工業系大学に進学しながら、工科大学に進学。将来、巻き込まれ、本人の知らぬ間に多額の借金を



「いろいろな人に会うことが楽しい」と話す赤穂さん

負わされた。身に覚えのない督促や取り立てに遭う祖父と、行方をくらました親戚。身近に起きた出来事に怒りを感じ、「被害を法的に解消する知識と資格が自分であれば」と思った。

書店で「行政書士」の本を見つければ、年齢、学歴を問わずチャレンジできると分かる。迷わず、大学生活に見切りをつけて行政書士を目指した。

1回目の受験は「自己採点で正解がほとんどない」状態。教科書に出る言葉の意味を理解するところから再スタート。1日12時間の勉強で追い込み、2回目合格率約4%の難関を突破した。建設業を営む父、善文さん(53)の「どっせやるなら独立しろ」という言葉に23歳で事務所を開業。建設業許可をはじめ、会計記帳、相続手続き、各種書類作成にと、各地を飛び回る。依頼主はほとんどが年の離れた経営者。「まずは自分を知ってもらうこと」と、何でも積極的に取り組むのが信条だ。5月からは、松本商工会議所主催の行政書士試験対策「憲法」など2講座の講師を担当する。赤穂さんは「身近で困っている人の役に立てるよう、自分を少しずつ大きくしていきたい」と、足元を見つめている。

あしなが育英会 街頭で募金活動

25、26日松本駅前

あしなが育英会は25、26日の午前10時午後6時、松本市のJR松本駅お城口前で、病気や災害、自殺などで親を亡くした子どもたちを支援する「あしなが学生募金」への協力を呼びかける。同募金は、同育英会の奨学金制度の財源に充てられる。中学の時



高校生や信大生も一緒に呼びかけた街頭活動(19日、JR松本駅前)

に親を亡くし、奨学金を利用して大学へ通っている信大理学部3年にも、奨学生や、エクスラン高校や信大のボランティア部など約20人、道行く人に募金を呼び掛けた。

大正ロマンで活性化

上土商店街が「元気市」

松本市大手4の上土 持ち込み開いている

を販売した。中でも鳥肉とアスパラガスを使った「大正ロマンメンチカツ」は、元気市だけの限定販売だ。

(28、大手3)は「一歩安いののでつい買い過ぎしてしまう」と話した。売上金は、同女性部

浅間温泉旅館協同組合(山本浩司理事長、23軒)は25日、ホテル 演ずる。宿泊客だけでなく、一般に開放する。一般

声を届けます。

示板

特選中古車

お得プライス実現!!

ホンダ NS1-II

シルバー

¥210,000

